

## 平成27年度自己評価および学校関係評価結果書

1. 幼稚園の教育目標      その子らしさが光り、最後までやり抜こうとする子  
学校法人 堀之内学園 堀之内幼稚園      園長 牧野千栄
2. 本年度重点目標      自己肯定感を育む保育  
学校法人 堀之内学園 堀之内幼稚園学校関係者評価委員会長 平野恵子
3. 教職員による評価項目に対する自己評価

評価項目	教職員自己評価	自己評価結果	学校関係者 評価委員意見	関係者 評価結果
1. 保育の計画性	保育室の各コーナーが子どもたちのその時々のお遊びの要求や発達に合っているのか考えながら、内容をちょっとずつ変化させていく必要がある。しかし、まずはお遊びの素材について、各保育室にはどんなものがどういう目的であるか、園内にはどうかということを保育者が少しずつ把握していく必要がある。	C	まずはクラス一人ひとりの遊びの要求、興味関心がどこにあるかをつかむ。そこを基点としながら、年少の後半からは小グループ、さらに大きい集団で遊ぶことに発展していけるように環境構成を少しずつ変化させていくことが大切。保育室を出てしまう、走り回ってしまうのも子どもの発達、欲求、現状を知るヒントになる。	B
2. 保育の在り方 幼児への対応	子どもの心持ちの共感、存在の受容というのは、保育者にとって比較的イメージしやすい援助だが、子どもからのアイデアをくみとり、それを発展させていくというのが保育者のキャリアや意識によって大分違ってくるし、とても難しい援助である。 キャリアの浅い保育者はまずは指導計画の中の活動を環境構成したり、行事の導入、余韻について先輩からアドバイスを受けてみるのが大切。	B	行事や活動ありきの保育は子どもの意欲や主体性につながりにくいことが多い。経験させた活動に対して、まるで子ども自身が選び取ったものであるかのような気持ちになるようなしかけが必要である。そういうことも含めて、先輩からアドバイスを伝えてほしい。	C
3. 教師としての資質 能力・良識・適正	自分の考えや思いを発言しないまま聞いて終わってしまうことがある。人の意見を主体的に自分のこととして受け止めていないこともあるのではないかと、参加する姿勢を自分なりに見直してみたい。	B	子どもの興味、関心がふつふつとし、広がっていくために先生自身が様々なことに関わったり、視野を広げたりしていくことが大切。その為にも先生自身が精神的に安定し、隊長が概ね良好である日が多いことが大切。	B

4. 保護者への対応	園内の活動について、クラスだより、連絡帳以外に知らせる方法がもっとないだろうか。保護者が保育室まで来るチャンスをもっと生かしたい。 平成28年度「共有し合える保護者との関係作り」というテーマで東海圏で発表することが決まっているので、今から事例を写真と文字で記録として残しておきたい。	B	先生たちの頑張りをほとんどの保護者が知らないでいる。ホームページやクラスだより、園のたよりを写真付きでイメージしやすくするのはどうか。	B
5. 地域の自然や社会との関わり	毎年、一番平均が低いが、普段行っている保育の中にこの項目にあたる要素が含まれるという意識がないという問題かもしれない。どういう活動、場面に自然や社会との関連があるか具体例を挙げてみたい。	C	小学校との連携の一つとして、指導要録の作成があるが、かなり現場の負担にもなっている。年少からの情報の記録をきちんと積み上げ、3月の繁忙期の書類作成が少しでも簡略化できるようにしていただきたい。	B
6. 研修と研究	全体研修、園内研修、学年研修、反省会と1ヶ月に行う会議や打合せがたくさんあり、研修を深める時間や余力がなかなか生み出せない。その方法を学びたい。	C	時間を決めて集中して内容の濃い研修や会議を行うことが先ず大切。欲張らずにポイントを絞って、職員が話題を共有することが大切。	B

※自己評価結果の表示方法

- A…十分達成された
- B…達成された
- C…取り組んだが達成が十分ではない
- D…取り組みが不十分であった

※学校関係者評価結果の表示方法

- A…十分に達成されていた
- B…達成されていた
- C…取り組みはみられたが達成が十分ではない
- D…取り組みがみられなかった

#### 4. 次年度以降に取り組む課題（継続）

- ・行事や活動のねらいを押さえる。（その活動を通して、子どもの中に何が育まれてほしいか）
- ・活動の連続性や導入を大切にする。（子どもたちの主体性を育み、見通しを持って生活し遊べるようにする。）
- ・安全危機管理について考える。